事業概要

一般国道408号真岡宇都宮バイパス（鬼怒テクノ通り）は、「ものづくり県」である本県の成長を牽引する鬼怒川左岸地域の工業団地群を連絡し、産業活動を支援する重要な幹線道路です。

広域的な交流・連携を強化し、本県経済のさらなる活性化を図るため、県では、平成15年度より真岡宇都宮バイパスの整備を推進してまいりました。

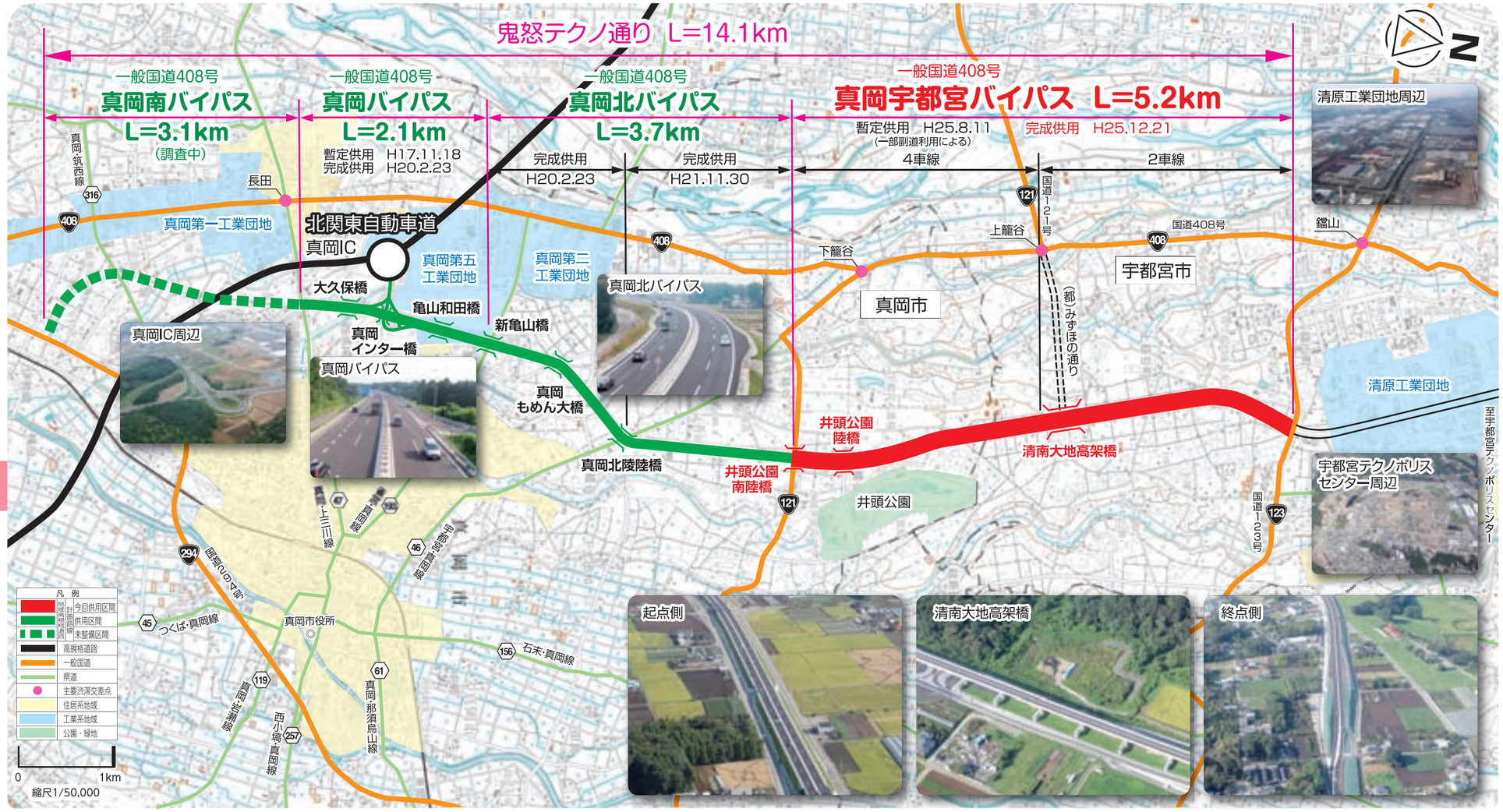
このたび清南大地高架橋の完成に伴い、平成25年12月21日に供用を開始しました。

本バイパスの供用により、清原工業団地や宇都宮テクノポリスセンターなどから北関東自動車道真岡ICへ直接アクセスすることが可能となり、物流の効率化などの効果が期待されます。

計画概要

一般国道 408 号 真岡宇都宮バイパス

事業区間	真岡市下籠谷～宇都宮市氷室町
全体延長	L=5.2km
道路幅員	W=18.5m（車道 3.5m×4 車線） ただし清南大地高架橋以北は 2 車線
事業主体	栃木県
事業期間	平成 15 年度～平成 25 年度
全体事業費	約 160 億円

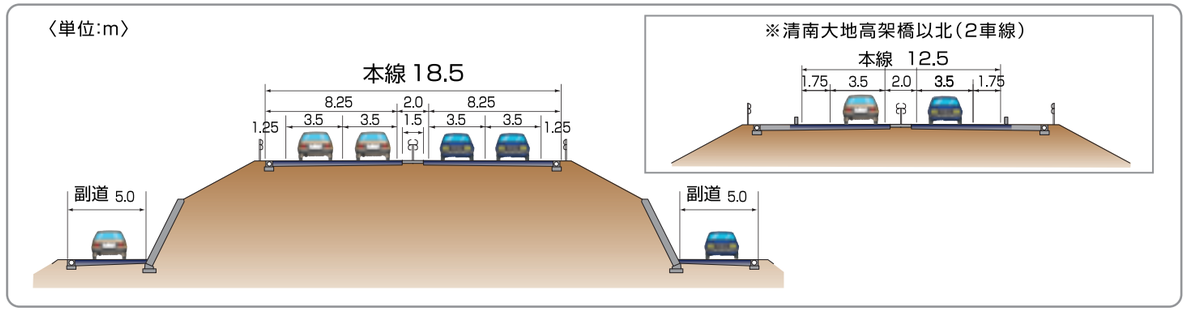


※この地図は、国土地理院発行の25000分の1地形図を使用したものである

真岡宇都宮バイパスは、地域高規格道路「常総・宇都宮東部連絡道路」の一翼を担っています。

常総・宇都宮東部連絡道路とは

一般国道408号真岡宇都宮バイパスは、常磐自動車道谷和原ICと東北縦貫自動車道矢板ICを結ぶ約100kmの地域高規格道路「常総・宇都宮東部連絡道路」の一部を構成する広域幹線道路です。

地域高規格道路とは、高速道路（高規格幹線道路）と一体になって、地域発展の核となる都市圏の育成や地域相互の交流促進、空港・港湾などの広域交流拠点との連絡等に資する重要な道路です。

標準横断図